平成3年 茨城県鉱工業指数の概況

1．全国の動向

(1) 生　　産

平成３年の鉱工業生産は，前年比2.1％と61年(同△0.2％)以来の低い伸びにとどまった。

四半期別にみると，鉱工業生産は，61年10～12月期を底として回復に転じた後，62年から元年１～３月期にかけて力強い拡大を続け，平成元年４～６月期以降は堅調に推移してきた。３年１～３月期になってマイナスに転じ，３年４～６月期には，61年７～９月期，10～12月期以来の２期連続低下となった。７～９月期には前期比0.3％増と３期ぶりに上昇になったが，低い伸びにとどまり，10～12月期には再びマイナスに転じた。

３年の鉱工業生産を業種別でみると，民生用電気機械等の増加により電気機械工業が上昇し，金型等の増加により，一般機械工業が上昇した。品目でいうと，特に，普通乗用車，セパレート形エアコンディショナ等が大きく上昇した。一方，玩具等の減少によりその他工業が低下し，織物等の減少により繊維工業が低下した。

(2) 出　　荷

３年の鉱工業出荷は，前年比1.7％と，２年(4.6％)からさらに伸び率の鈍化がみられた。また，10～12月期には，前年同期比△1.3％と58年１～３月期(△0.3％)以来，およそ９年ぶりの低下となった。

(3) 在　　庫

３年の鉱工業製品在庫は，前年末比13.1％の上昇と，２ケタ台の大きな伸びを示した。また，在庫率の伸びも5.7％で，２年(0.6％)と比べて大幅に上昇した。(表―１)

(通産大臣官房調査統計課編「鉱工業生産活動分析」より一部抜粋)

表―１　鉱工業指数の推移（全国）

(60年＝100，季節調整済指数)

	2年	3年	2年				3年			
			1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
生産	125.4	128.0	121.5	124.1	126.8	128.9	128.8	127.9	128.3	126.9
(前期(年)比)	4.6	2.1	0.7	2.1	2.2	1.7	△0.1	△0.7	0.3	△1.1
(前年同期比)	—	—	1.8	3.4	5.9	7.1	5.9	3.1	1.2	△1.1
出荷	126.7	128.8	123.4	125.5	128.1	129.5	129.5	128.3	129.6	127.9
(前期(年)比)	5.2	1.7	1.8	1.7	2.1	1.1	0.0	△0.9	1.0	△1.3
(前年同期比)	—	—	3.0	4.5	6.4	6.8	4.9	2.2	1.2	△1.3
輸出向け出荷	116.6	121.3	113.7	115.0	116.8	120.5	121.2	117.2	121.5	125.4
(前期(年)比)	6.3	4.0	5.6	1.1	1.6	3.2	0.6	△3.3	3.7	3.2
(前年同期比)	—	—	3.6	5.5	5.2	10.9	6.2	1.9	4.0	4.1
国内向け出荷	128.3	130.2	124.8	127.2	129.8	131.0	130.7	130.1	130.7	129.4
(前期(年)比)	5.0	1.5	1.1	1.9	2.0	0.9	△0.2	△0.5	0.5	△1.0
(前年同期比)	—	—	2.9	4.2	6.5	6.3	4.7	2.3	0.7	△1.2
在庫	110.0	124.5	109.2	108.6	108.5	110.0	113.7	116.8	118.3	124.5
(前期(年)末比)	△0.5	13.1	△1.3	△0.5	△0.1	1.4	3.4	2.7	1.3	5.2
在庫率	94.1	99.5	95.7	94.8	92.6	93.3	94.6	98.6	100.7	104.4
(前期(年)比)	0.6	5.7	0.0	△0.9	△2.2	0.8	1.4	4.2	2.1	3.7
稼働率	105.7	—	103.2	105.5	106.6	107.3	105.4	104.8	104.3	—
(前期(年)比)	2.3	—	0.2	2.2	1.0	0.7	△1.8	△0.6	△0.5	—

(注)　年の数値，前年同期比は原指数による。

2．本県の動向

(1) 生　　産

平成3年の本県の鉱工業生産指数をみると，131.5で前年比4.1%の上昇と，わずかに昨年(4.9%)より伸びは鈍化したものの，昭和58年から9年連続の伸びを示している。(表―2)

業種別に寄与度をみると，食料品・たばこ工業が大きく，化学工業も引き続き大きな寄与を示している。さらに，一般機械工業，電気機械工業の寄与度が大きい。反対に，輸送機械工業，窯業・土石製品工業，プラスチック製品工業及び鉄鋼業がマイナスへ転化した。

これを全国値，通産局値と比べてみると，一般機械工業，化学工業，食料品・たばこ工業の寄与度の大きさが目立っている。また，電気機械工業は，全国値，通産局値とも全業種中最大の寄与度となっているが，本県値をみると，比較的大きな寄与を示しているが，最大というほどではない。繊維工業については，本県値，全国値，通産局値のいずれもマイナスとなっている。

年間の指数の動きを四半期別にみると，対前期比では，1～3月期が2.5%の上昇，4～6月期がもちあい，7～9月期が△0.7%，10～12月期が△0.9%の低下となった。

また，前年同期比でみると，1～3月期が7.3%，4～6月期が5.1%，7～9月期が3.6%，10～12月期が0.7%とそれぞれ上昇を示した。

以上，生産についてみると，次第に伸びが鈍化もしくはマイナスへと転化してきている。(表―3，図―1)

指数の前年比を業種別にみると，低下した業種は，鉄鋼業，輸送機械工業，窯業・土石製品工業，プラスチック製品工業，繊維工業，その他工業で

表―2　鉱工業指数の推移

(60年＝100，原指数)

		昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
茨城県	生産	106.2	113.9	120.4	126.3	131.5
	対前年増減率(%)	3.9	7.3	5.7	4.9	4.1
	出荷	107.9	115.8	122.6	128.1	131.8
	対前年増減率(%)	5.6	7.3	5.9	4.5	2.9
	在庫	88.1	95.1	109.0	107.5	130.0
	対前年増減率(%)	△6.9	7.9	14.6	△1.4	20.9
全国	生産	103.2	113.0	119.9	125.4	128.0
	対前年増減率(%)	3.4	9.5	6.1	4.6	2.1
	出荷	104.4	113.5	120.4	126.7	128.8
	対前年増減率(%)	3.9	8.7	6.1	5.2	1.7
	在庫	97.4	99.0	106.8	109.3	117.3
	対前年増減率(%)	△3.7	1.6	7.9	2.3	7.3
関通管内	生産	105.2	115.0	121.3	126.2	127.9
	対前年増減率(%)	4.8	9.3	5.5	4.0	1.3
	出荷	106.0	115.1	121.0	127.1	129.0
	対前年増減率(%)	4.4	8.6	5.1	5.0	1.5
	在庫	94.1	101.8	114.5	111.7	128.2
	対前年増減率(%)	△5.9	8.2	12.5	△2.4	14.8

(注)　関通(＝関東通産局)管内：関東地方1都6県に新潟県，長野県，山梨県，静岡県を含めた1都10県。

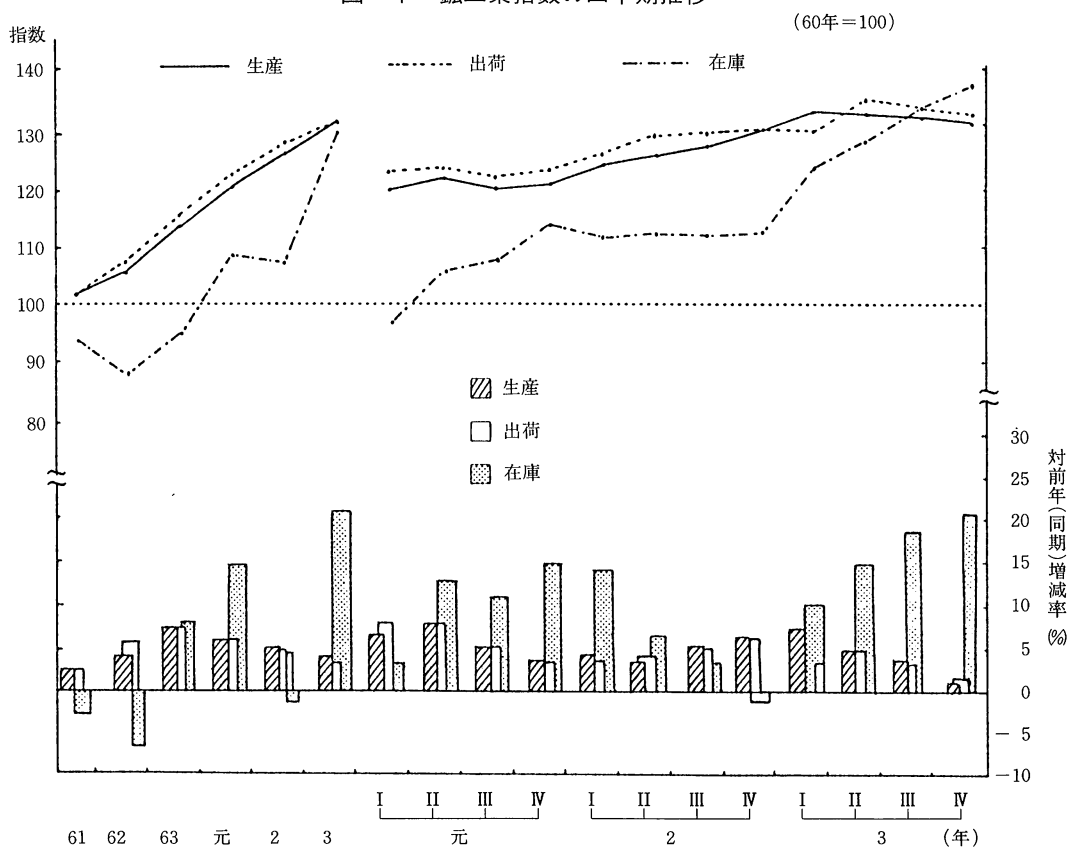
表―3　鉱工業指数の四半期推移

（60年＝100，季節調整済指数）

		平成元年				平成2年				平成3年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	季節調整済指数	119.4	121.9	120.0	120.2	123.8	125.4	126.7	129.0	132.2	132.2	131.3	130.1
	対前期増減率(%)	3.4	2.1	△1.6	0.2	3.0	1.3	1.0	1.8	2.5	0.0	△0.7	△0.9
	対前年同期増減率(%)	6.6	8.0	4.9	3.6	4.1	3.4	5.3	6.7	7.3	5.1	3.6	0.7
出荷	季節調整済指数	122.8	123.2	121.5	122.6	125.5	128.5	129.0	129.5	129.1	134.1	133.0	131.1
	対前期増減率(%)	3.9	0.3	△1.4	0.9	2.4	2.4	0.4	0.4	△0.3	3.9	△0.8	△1.4
	対前年同期増減率(%)	7.8	7.7	5.0	3.3	3.2	4.0	5.2	5.7	2.3	4.8	3.2	1.3
在庫	季節調整済指数	96.4	105.5	107.6	113.6	111.2	111.8	111.2	111.7	122.7	127.3	132.5	136.4
	対前期増減率(%)	△3.4	9.4	2.0	5.6	△2.1	0.5	△0.5	0.4	9.8	3.7	4.1	2.9
	対前年同期増減率(%)	2.9	12.9	10.9	14.6	13.9	6.2	3.1	△1.4	10.3	14.8	18.9	20.9

（注）対前年同期増減率は，原指数による。

図―1　鉱工業指数の四半期推移



（注）グラフは原指数により作図されている。ただし四半期折れ線グラフは季節調整済指数による。

ある。これを低下率の大きな順で並べると，輸送機械工業(△29.8%)，窯業･土石製品工業(△9.5%)，繊維工業(△6.4%)，鉄鋼業(△3.6%)，その他工業(△1.4%)，プラスチック製品工業(△0.8%)である。逆に，上昇率の大きな業種は，食料品・たばこ工業(17.6%)，化学工業(11.6%)，非鉄金属工業(11.5%)であった。(表―４)

また，財別で前年比をみると，非耐久消費財15.7%，資本財8.0%，耐久消費財4.1%が上昇，建設財△5.5%，その他用生産財△4.4%とそれぞれ低下となった。

(2) 出　荷

平成３年の本県の鉱工業出荷指数は，131.8で前年比2.9%の上昇となった。(表―２)

年間の指数の動きを四半期別にみると，対前期比で１～３月期が△0.3%の低下，４～６月期が同3.9%の上昇，７～９月期が同△0.8%，10～12月期が同△1.4%とそれぞれ低下した。

前年同期比でみると，１～３月期が2.3%，４～６月期が同4.8%，７～９月期が同3.2%，10～12月期が同1.3%と全期にわたって上昇となった。(表―３，図―１)

(3) 在　庫

平成３年の本県の鉱工業在庫指数は130.0で，前年比20.9%と大幅な上昇となった。(表―２)

年間の指数の動きを四半期別にみると対前期比で，１～３月期は9.8%，４～６月期は同3.7%，７～９月期は同4.1%，10～12月期は同2.9%と全期にわたって上昇した。

前年同期比でみると，１～３月期は10.3%，４～６月期は同14.8%，７～９月期は同18.9%，10～12月期は同20.9%とやはり全期にわたって上昇を示した。(表―３，図―１)

表―４　業種別対前年増減率

(増減率：原指数，単位：%)

業種	生産		出荷		在庫	
	2年	3年	2年	3年	2年	3年
鉱工業	4.9	4.1	4.5	2.9	△ 1.4	20.9
製造工業	4.9	4.1	4.5	3.0	△ 1.5	20.9
鉄鋼業	2.1	△ 3.6	2.5	△ 1.5	△ 4.7	△12.4
非鉄金属工業	6.7	11.5	8.1	6.4	△ 7.7	29.3
金属製品工業	13.0	3.5	20.4	2.9	8.8	1.4
機械工業	4.2	3.9	2.1	2.9	△ 0.7	67.5
一般機械工業	6.7	7.1	7.1	1.4	△ 6.8	100.2
電気機械工業	1.8	4.0	△ 1.5	6.9	8.5	17.2
輸送機械工業	4.7	△29.8	2.6	△33.6	△ 2.8	19.9
精密機械工業	8.7	2.1	7.1	1.4	39.8	△ 3.8
窯業・土石製品工業	4.1	△ 9.5	4.6	△ 8.0	5.7	14.7
化学工業	12.5	11.6	7.9	6.0	△11.9	△ 1.1
石油・石炭製品工業	8.7	6.0	6.3	0.7	22.7	△14.6
プラスチック製品工業	1.2	△ 0.8	3.8	△ 0.4	△13.3	13.8
パルプ・紙・紙加工品工業	5.3	0.7	6.3	0.4	0.1	1.6
繊維工業	△ 5.5	△ 6.4	△ 3.9	△ 8.0	△ 7.7	13.4
食料品・たばこ工業	2.9	17.6	5.8	10.2	△ 0.8	9.0
その他工業	△ 3.3	△ 1.4	△ 4.1	0.2	4.7	△13.0
ゴム製品工業	△ 2.9	13.9	△ 5.2	14.5	△ 3.7	△14.9
皮革製品工業	3.7	△ 3.5	2.0	△ 4.1	55.2	△ 5.3
家具工業	△15.0	△15.3	△ 8.4	△11.8	△ 0.1	△23.1
木材・木製品工業	△ 2.1	△ 5.7	△ 2.4	△ 6.7	△ 8.7	20.3
その他製品工業	2.7	△17.7	△ 1.5	△10.6	23.6	△18.7
鉱業	2.9	0.1	7.8	2.7	18.7	2.3

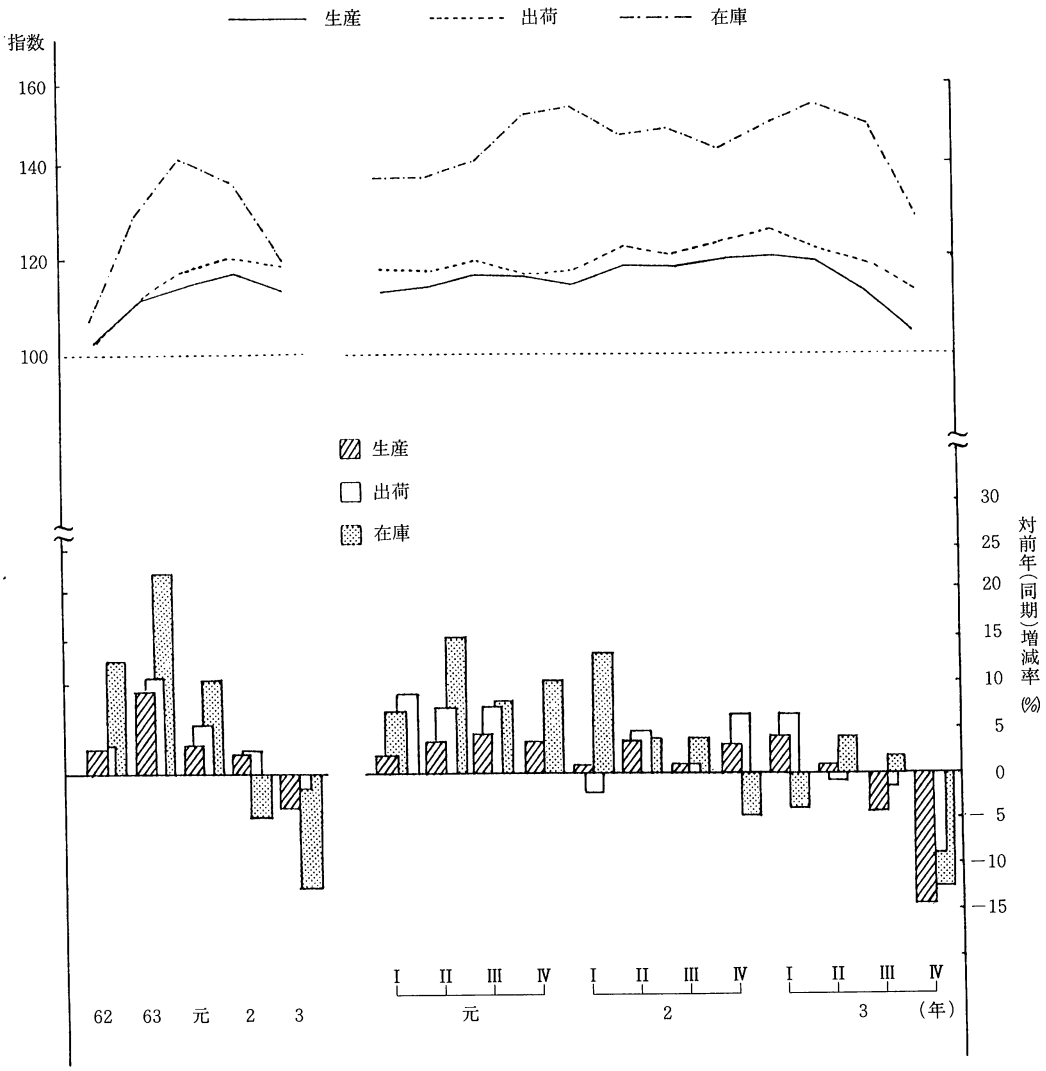
3．業種別の概況

(1) 鉄 鋼 業

平成３年の鉄鋼業の生産指数は，114.6で前年比△3.6%と，８年ぶりの低下を示した。

これは，普通鋼硬鋼線，フェロアロイ等が増加したものの，Ｈ型鋼，その他の金属めっき鋼板等が減少したことによる。出荷指数は120.4で同△1.5%の低下，在庫指数は121.1で同△12.4%の低下となった。

生産指数の年間の動きを前期比でみると，１～３月期は0.4%の上昇，４～６月期は△1.1%の低下，７～９月期は△5.4%の低下，10～12月期は△9.2%の低下となった。前年同期比でみると，62年４～６月期以降17期連続の上昇の後，７～９月期になって低下に転じ，10～12月期にも連続して低下した。

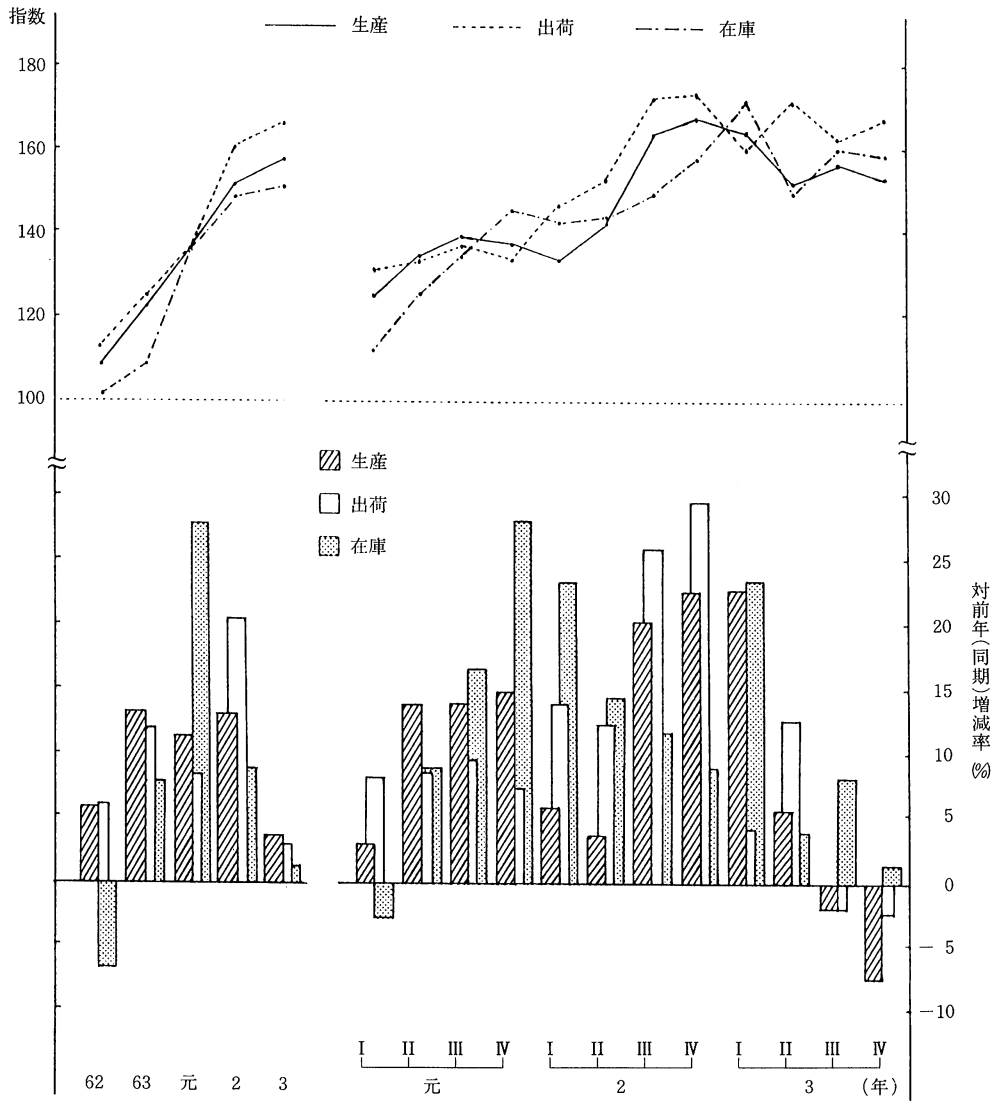


(2) 金属製品工業

平成3年の金属製品工業の生産指数は，158.2で前年比3.5%上昇となり，3年続いた2ケタ台の伸びから低い伸びにとどまった。

これは，アルミサッシ(ビル用)，飲料用缶等が増加したものの，アルミエクステリア，アルミ建具等が減少したことによる。出荷指数は167.3で同2.9%の上昇，在庫指数は151.8で同1.4%の上昇となった。

生産指数の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は△2.0%の低下，4～6月期は△7.4%の低下，7～9月期は3.8%の上昇，10～12月期は△2.5%の低下となった。前年同期比で7～10月期に低下に転じた。

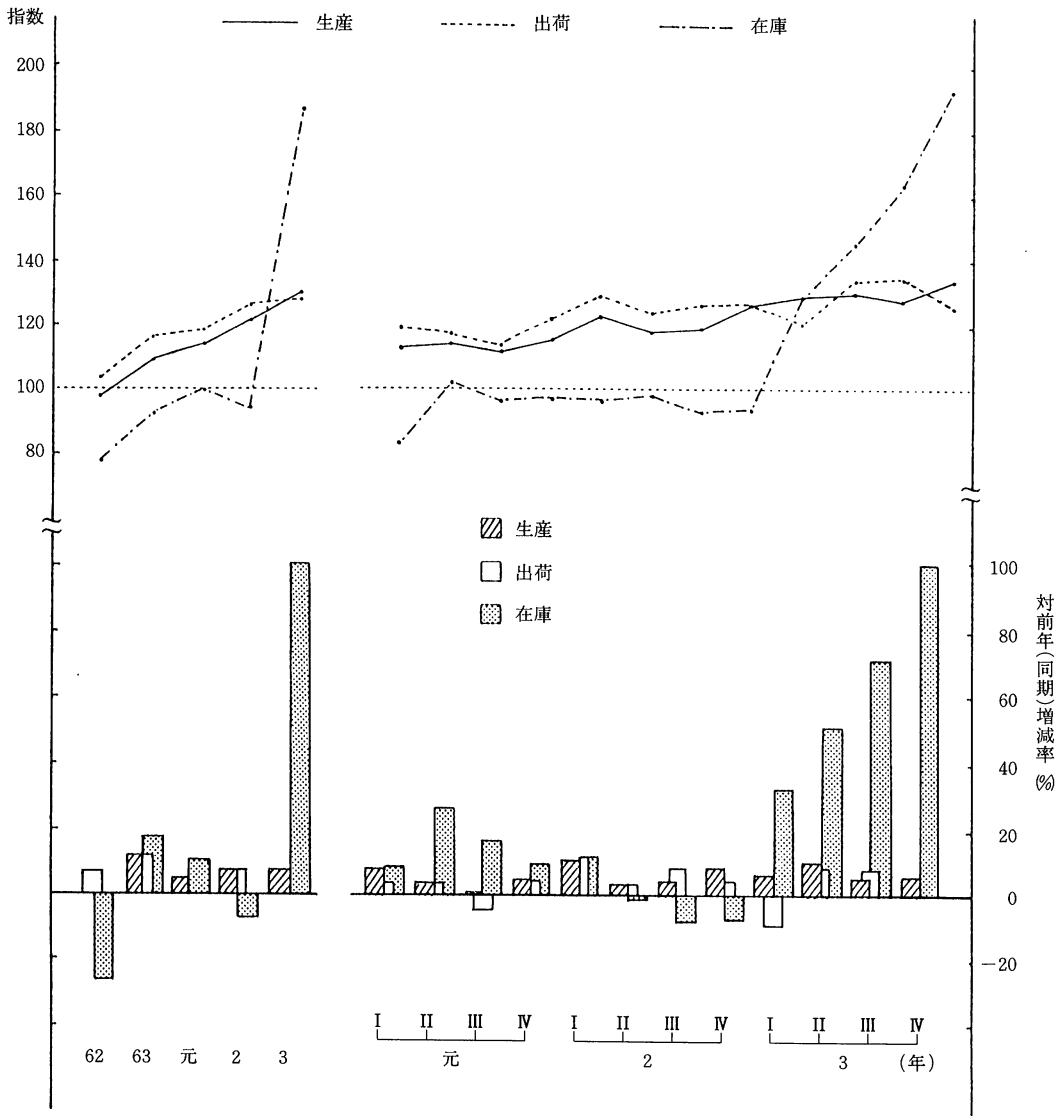


(3) 一般機械工業

平成３年の一般機械工業の生産指数は，129.4で前年比7.1%の上昇となった。

これは，ポンプ，冷凍機(遠心式)等が減少したものの，タービン，エレベータ，圧延機械等が増加したことによる。出荷指数は127.6で同1.4%の上昇，在庫指数は187.0で同100.2%の上昇となった。

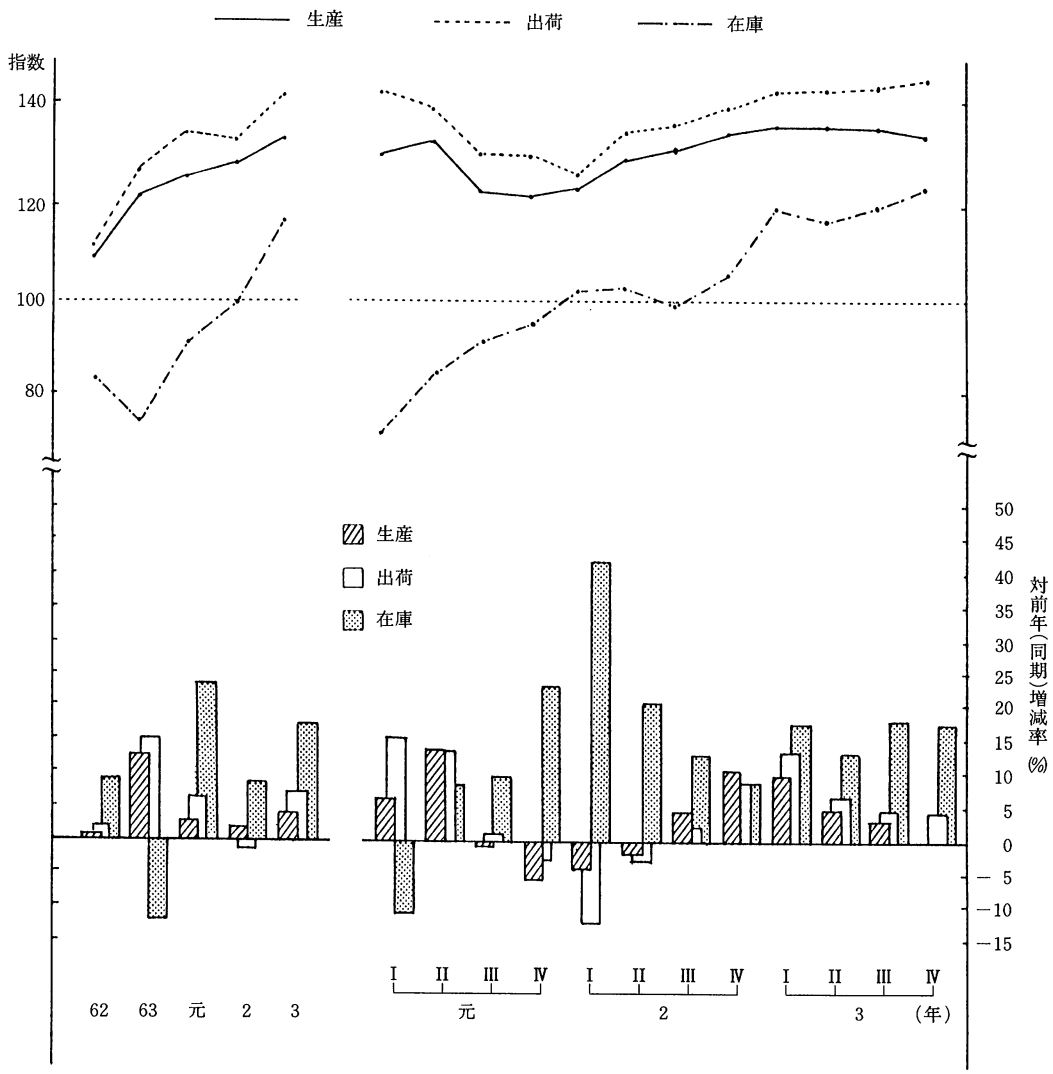
生産指数の年間の動きを前期比でみると，１～３月期は2.1%の上昇，４～６月期は1.0%の上昇，７～９月期は△2.2%の低下，10～12月期は4.9%の上昇となった。前年同期比では62年７～９月期以降，18期連続で上昇を示した。



(4) 電気機械工業

平成3年の電気機械工業の生産指数は，134.1で前年比4.0%上昇となった。これは，カラーテレビ，カーステレオ等が減少したものの，開閉制御装置，ビデオカメラ等が増加したことによる。出荷指数は142.9で同6.9%の上昇，在庫指数は117.6で同17.2%の上昇となった。

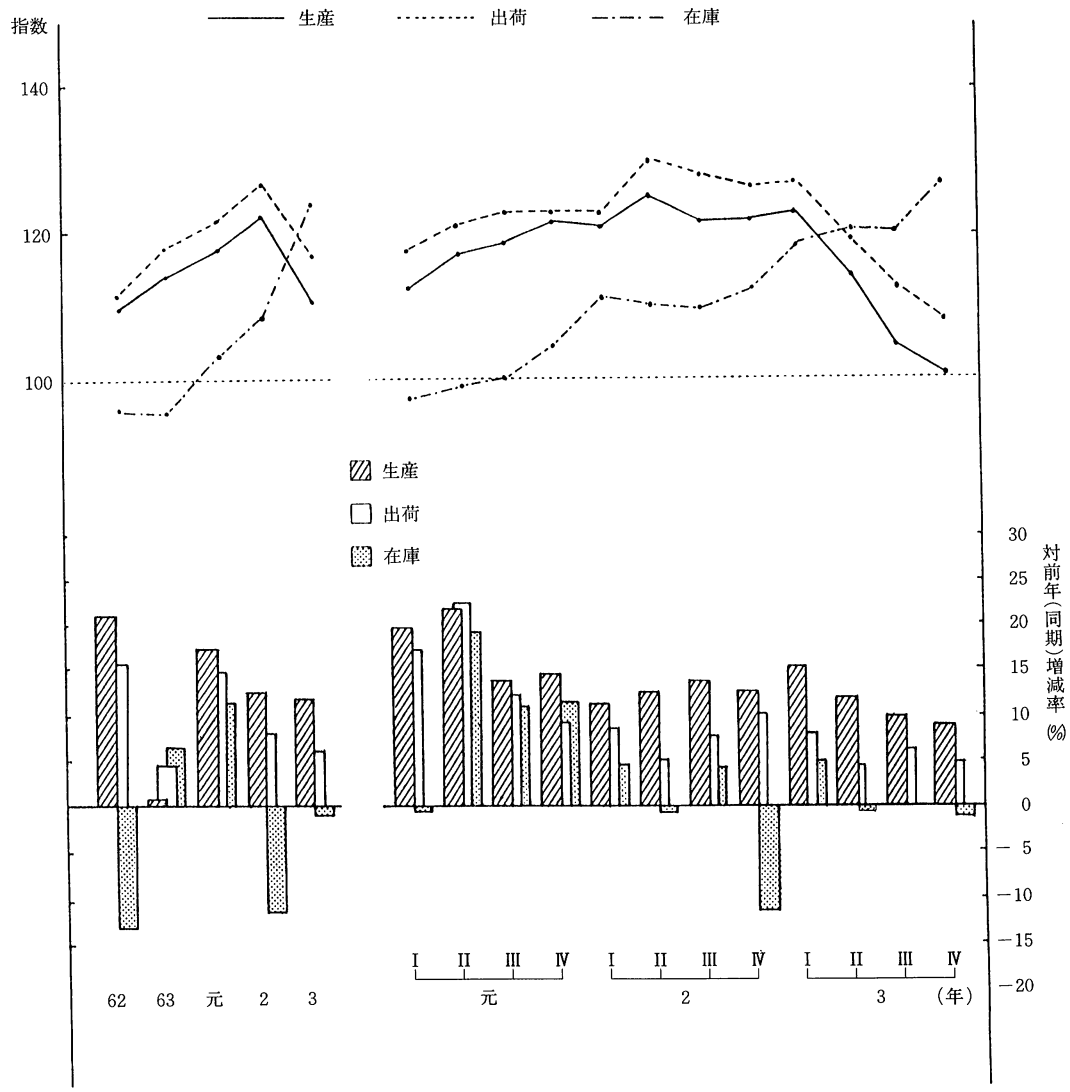
生産指数の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は1.4%の上昇，4～6月期は△0.5%の低下，7～9月期は0.3%の上昇，10～12月期は△1.8%の低下となった。前年同期比では，次第に伸びが鈍化してきており，10～12月期では，伸びが0となった。



(5) 化学工業

平成3年の化学工業の生産指数は，188.8で前年比11.6%と大きく上昇した。これは，純ベンゾール，スチレンモノマー等が減少したものの，合成アセトン，合成石炭酸等が増加したことによる。出荷指数は162.0で同6.0%の上昇，在庫指数は87.9で同△1.1%の低下となった。

生産指数の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は6.0%の上昇，4～6月期は3.4%の上昇，7～9月期に0.2%の上昇，10～12月期は△3.0%の低下となった。前年同期比では年を通じて増加したものの，次第に伸び率が減少してきている。



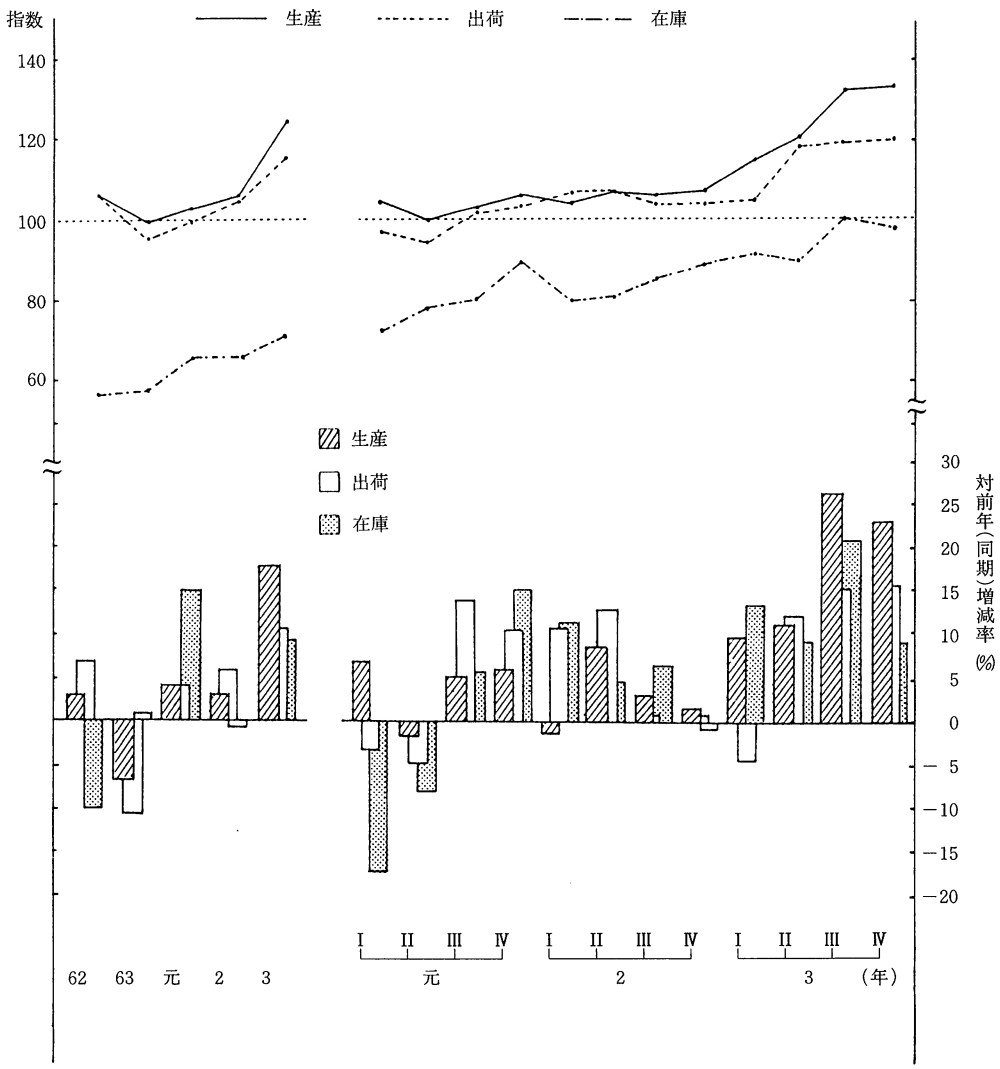
(6) 食料品・たばこ工業

平成３年の食料品・たばこ工業の生産指数は，124.9で前年比17.6%の上昇となった。

これは，ソース，たばこ等が減少したものの，肉製品，乳飲料，清涼飲料，ビール等が増加したことによる。出荷指数は115.9で同10.2%の上昇，在庫指数は71.5で同9.0%の上昇となった。

生産指数の年間の動きを前期比でみると，１～３月期は6.7%の上昇，４～６月期は5.0%の上昇，７～９月期に9.7%の上昇，10～12月期は0.7%の上昇となった。前年同期比では年間を通じて上昇し，４～６月期以降はいずれも２ケタ台の伸びを示した。

（統計課・分析情報グループ）



（統計課・分析情報グループ）